

OB山崎さんが講演

経営学部「経営学特講（SM）」（奥村経世准）と学生たちに語りかけ、専大在学時や就職後に自身が起業に向けて取り組

専大在学時や就職後に自身が起業に向けて取り組

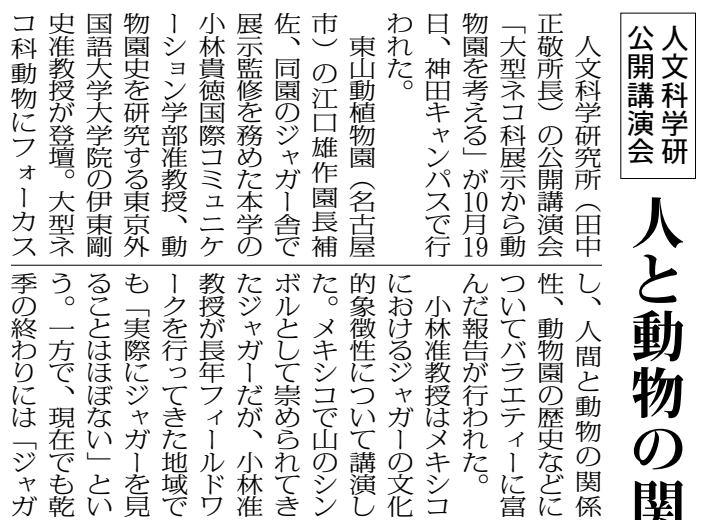
教授)では、ビジネス界の最新動向に着目しつつ、企業変革やイノベーション、デザイン思考、アート思考を学ぶ。10月25日には、本学卒業生で、スーパー銭湯再生のプロ」と呼ばれる株式会社ONDOホールディングス代表取締役社長の山崎寿樹さん(平18商)をゲストスピーカーに招いた。山崎さんは起業に至るまでの経緯や経営方針、現在の取り組みなどを語った。

起業に至る経緯や経営方針などを伝えた山崎さん

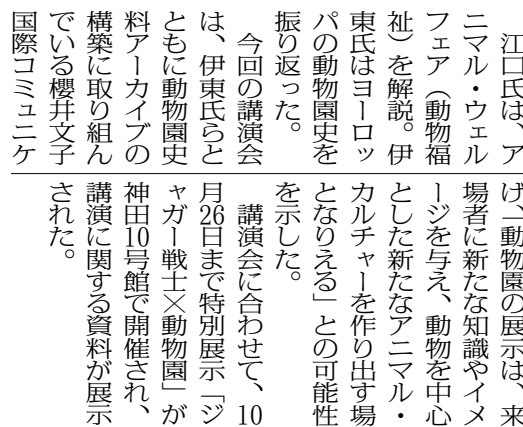
んできたことを伝えた。

また、温泉や宿泊施設の運営を軸として、地方創生事業やプロ野球の球団経営などにまで幅広く展開していることについて、その背景にあるビジネスやコンセプトなどを詳細に話し、「お客様がほしい商品やサービスは顕在化していない。『もういうものがほしいのではないか』と考えて作っていく」と、新事業を創造する考え方を明かした。

キシコとジャガーの関わりを解説した小林准教授



特別展示で貴重な資料を見学する来場者



は日常から消えたが、いまなお人々の興味・関心を集める存在で、民俗文化財としての側面もある」とまとめた。

ー ション学部教授がコーディネートした。櫻井教授は3氏の講演の共通点としてアニマル・カルチャー（動物の文化）を挙

江口氏は、ア ニマル・ウェル フェア（動物福 祉）を解説。伊 東氏はヨロッ パの動物園史を 振り返った。	は、動物園の展示は、来 場者に新たな知識やイメ ージを与え、動物を中心 とした新たなアニマル・ カルチャーを作り出す場 となりえる」との可能性 を示した。
--	---

今回の講演会は、伊東氏らとともに動物園史料アーカイブの構築に取り組んでいる櫻井文子

講演会に合わせて、10月26日まで特別展示「ジヤガー戦士×動物園」が、神田10号館で開催され、講演に関する資料が展示された。

人文科学研
公開講演会

人と動物の関係を考察

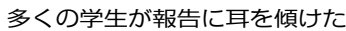
人文科学研究所（田中正敬所長）の公開講演会「大型ネコ科展示から動物園を考える」が10月19日、神田キャンパスで行われた。

し、人間と動物の関係性、動物園の歴史などについてバラエティーに富んだ報告が行われた。

小林准教授はメキシコにおけるジャガーの文化

東山動植物園（名古屋市中）の江口雄作園長補佐、同園のジャガー舎で展示監修を務めた本学の小林貴徳国際コミュニケーション学部准教授、動物園史を研究する東京外国語大学大学院の伊東剛史准教授が登壇。大型ネコ科動物にフォーカスした。メキシコで山のシンボルとして崇められてきたジャガーだが、小林准教授が長年フィールドワークを行ってきた地域でも「実際にジャガーを見ることはほぼない」という。一方で、現在でも乾季の終わりに「ジャガー

ネット情報 企業研修報告会 5年ぶりに対面で実施



ネットワーク情報学部
で開講している「企業研
修」（担当：小林隆教授、
安積義弘兼任講師）の報
告会が10月15日、生田キ
ャンパスで行われた。

「企業研修」は、自己分析やマナー研修などの事前研修とインターンシップを通して、仕事の基本を理解し自らのキャリアについて考えることを目話した。

田中諒香さんは、「社

対面での報告会には5年ぶり、1、3年次生約400人が出席。受講生を代表して3年次生4人が、就業体験型インターンシップでの学びや成果を伝えた。

発表者は、ウェブサイ
トやアプリの制作といっ
た業務、リモートワーク
やほかの学生とのチーム
活動など、それぞれの体
験を報告した。「時間の

田中詔香さんは「社会に出る不安はあるが、
研修を通して、素晴らしい経験ができた」とスト
リートに気持ちを語っ

政策科学シンポジウム

スタートアップの展望探る

大学院経済学研究科と社会科学研究所が共催する政策科学シンポジウム「日本のスタートアップの課題と展望」が10月30日、対面とオンラインの

吉明教授がコーディネーターを務め、各務氏、独立行政法人中小企業基盤整備機構創業・ベンチャー支援部長の石井芳明氏、トレードラム株式会社代表取締役の阪根信一氏、本学の鹿住倫世商学部教授、遠山浩教授が意見を交わした。

専修人の
新
し
い
本

日本人は英語の発音をどう学び、教えてきたか
英語音声教育の小通史

英語コミュニケーション能力の基盤だが、現場の主流ではない。こうした

指導形態が日本人の英語力の「脆弱性」の要因であることは否否三々三々。

日本人は英
音指導
日本人にのみ
英語発音指導
田邊祐司 著
ういう方向へ進むのか、
そもそも、なぜ日本人は

田邊祐司 著

本書は、日本の中等教育における英語音声（発音）指導のhistoriography（歴史記述）である。音声指導は入門期には行われるものの、学年進行につれて形骸化する。か。この問題意識のもとに著者は歴史的なアプローチから英語音声指導・学習の日本での変遷をつづり、今後のあり方を展望する。（研究社・税込33850円）

学習者も語彙、文法、解
釈中心の「目の学習に集
中しがちである。音声は
学、英語教育史。 著者（たなべ・ゆうじ）

社会貢献活動
地域とともに アカペラサークル **EmoHillが出演**



川崎市多摩区にゆかりのある専修・明治・日本女子の3大学の音楽系サークルによる「多摩区3大学コンサート～水と緑と学びのまち～」が11月9日、多摩市民館大ホールで開かれ、本学からはアカペラサークルE mo H i l l が出第20回の節目でもあり、多く

総合司会を、本学の放送研究会AREAの長崎珠里さん（文2）が担当。Emo Hillはトップバッターを務め、Jポップを中心に6曲を披露した。臼井ゆりさん（人間科学3）は「緊張したが、楽しく歌うことができた」と笑顔で語った。